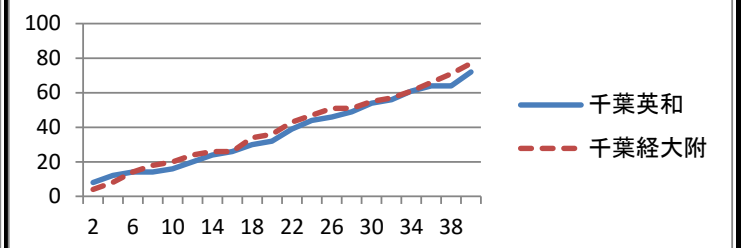
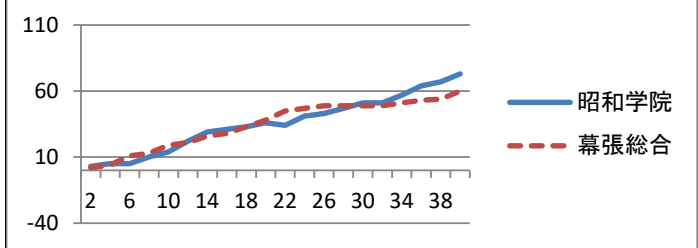


ピリオドスコア・戦評 決勝リーグ その1

2017/6/23

Game		Team		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A5	201	昭和学院	◎	14	22	15	22		73
	222	幕張総合	○	19	19	11	11		60

Game		Team		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B5	242	千葉英和	◎	16	16	22	18		72
	282	千葉経大附	◎	20	16	19	22		77

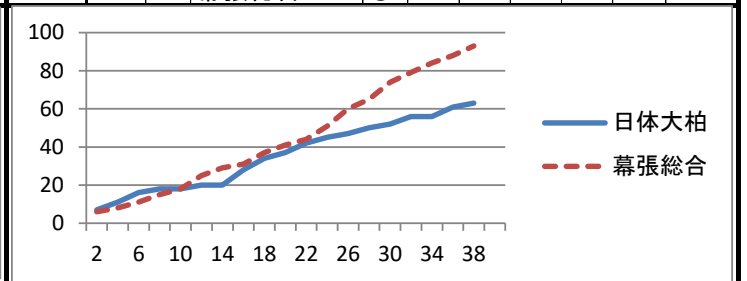
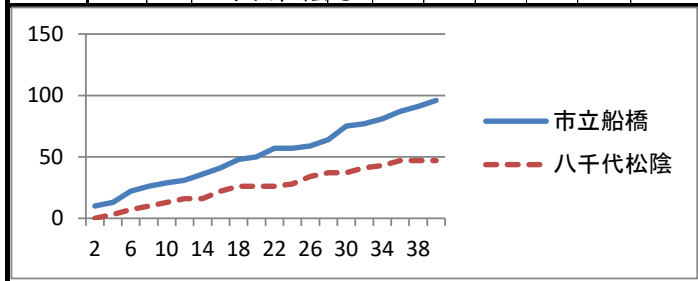


女子決勝リーグ1回戦、試合は昭和#4佐古の3pで先制するも、流れを掴んだのは幕総だった。ツープラトンでのマンツーマンやゾーンディフェンスを巧みに使い分け、14対19の幕総リードで第1P終了。対する昭和は第2P出だし、幕総のパスミスを確認し得点につなげ、すぐに19対18と逆転に成功する。昭和リードの展開が続くが、残り2分、幕総#15寺内の3pで、33対33の同点に追いつき、さらに終了間際、再び幕総#15寺内の3pが決まり、36対38の幕総リードで前半終了。第3Pの開始早々、昭和のターンオーバーが4連続で続いてしまう。それを着実に幕総は得点し、36対45と一気にリードを広げ、昭和はタイムアウトを取る。その後、両チームとも得点が伸びない展開が続くが、残り2分、昭和#11黒澤の4連続得点でついに逆転し、51対49で第3P終了。最終第4P、両チームともシュートには行くが得点できない時間が続くが、昭和#7宗形と#9山本の連続3pが決まり、昭和が一步リードする。幕総も果敢に攻め続けるが、最後は73対60で昭和が決勝リーグ1回戦を制した。

両チーム、ハーフコートマンツーマンで試合開始。第1P開始早々に、千葉英和は#9川原、#8小林、#4伊藤と立て続けに得点を重ねリードを奪う。対する千葉経大附も#4中村、#7宮城、#9土屋のスピードのある攻撃で流れを譲らず、16-20で千葉経大附が4点リード。第2P、両者一步も譲らず、一進一退の攻防が続くも、千葉経大附#9土屋の連続得点などで32-36とリードは変わらず千葉経大附のまま前半終了。第3P、千葉経大附はインサイドの#15高橋を中心に得点を重ねていく。しかし、千葉英和も#8小林のゴール下シュートや、#4伊藤の連続3pで食らいつく。54-55で千葉経大附が1点リードで勝負は第4Pへ。第4P開始1分、千葉経大附#5大嶋がファウルアウト。一時、千葉英和#9川原にインサイドを攻め込まれるも、千葉経大附は#4中村、#15高橋が着実に得点し、最後は千葉英和の猛追を振り切り、77-72で千葉経大附が接戦をものにした。

Game		Team		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A6	101	市立船橋	◎	29	21	25	21		96
	141	八千代松陰	◎	13	13	11	12		49

Game		Team		1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B6	142	日体大柏	◎	18	19	13	13		63
	182	幕張総合	◎	18	23	31	21		93



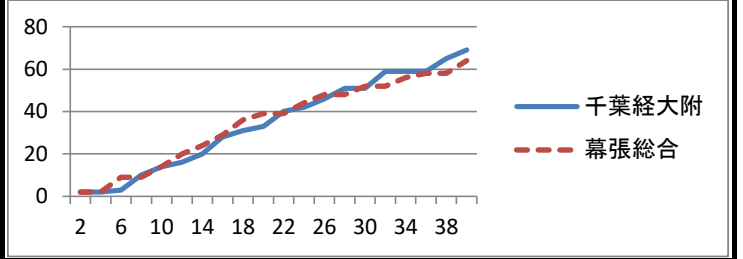
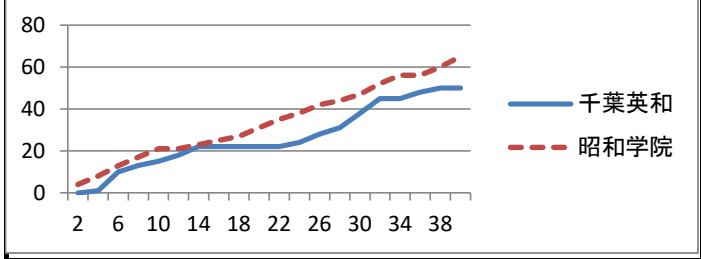
両チームともマンツーマンでスタート。市立船橋は#4保泉がエンジン全開。シュートは打てば入るまさに「ゾーンに入った」状態で2本の3P、2本のミドルシュートを2分で沈め10-0と主導権を完全に握る。八千代松陰はタイムアウトで巻き返しを図るも市立船橋の堅いディフェンスの前に差は広がる。第2ピリオドに入っても市立船橋の勢いは止まらない。第2ピリオドは#7野崎が大爆発。このピリオドだけで12点を稼ぎ、前半を50-26とリードを奪い前半は終了した。後半は八千代松陰が明日を見越しスタメンを温存。市立船橋が全ピリオドでリードを奪う盤石の戦いで緒戦を制した。

両チームハーフコートマンツーマンでゲーム開始。日体大柏#6小出のスティールからのレイアップ、3pで先制すると、幕張総合も#4小松の3pでやり返す。日体大柏は#10テムヴィ、#15ケイタの高さを生かした攻撃でリードを広げる。対する幕張総合も#4小松の3pなどで点を重ね18-18で第1P終了。第2P、両チームファールトラブルに苦しむ。日体大柏#10テムヴィ、#15ケイタがそれぞれ4つ目のファールを犯してしまうとその間に幕張総合はリードを最大9点まで広げる。このまま、幕張総合のペースでゲームが進むかと思われたが、幕張総合#4小松が4つ目のファールでベンチに下がると、日体大柏は#13前田の3pなどで巻き返し、37-41、幕張総合4点リードで前半終了。後半に入ると幕張総合のアウトサイドシュートが大爆発。このピリオドだけで、#9古賀が5本、#10濱野、#12川村もそれぞれ1本ずつ3pを決める。日体大柏も#13前田の3pなどで対抗するが、思うように点が伸びず、72-50、幕張総合22点リードで第3P終了。第4P、日体大柏はオールメンバーチェンジで巻き返しを図るが、幕張総合は#5上甲を中心に得点を重ね、93-63で試合終了。高さで劣る幕張総合の堅いディフェンスが光るゲームであった。

ピリオドスコア・戦評 決勝リーグ その2

2017/6/24

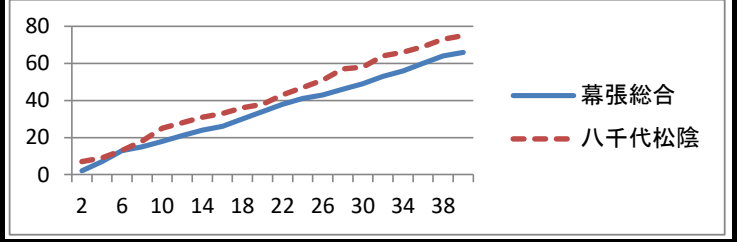
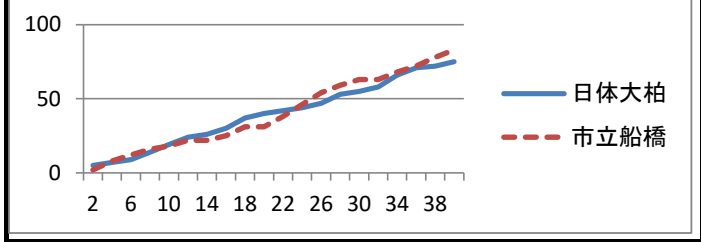
Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total	Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total		
A1	242	女 千葉英和	◎	15	7	16	12		50	B1	282	女 千葉経大附	◎	14	19	18	18		69
	201		◎	21	10	16	18		65		222		幕張総合	○	14	25	13	12	



両チーム共にマンツーマンディフェンスでスタートする。共に硬さが目立つなか、昭和学院は#4、#7を中心に、千葉英和は#7のインサイドで対抗する。残り4分で千葉英和は5人共に交代し一年生中心のチームにするが、昭和は#8のゴール下シュート等で6点リードで1Q終了。2Q開始で英和は#4の3Pから3連続得点で逆転するも、昭和#4の連続得点、#8のゴール下で得点し31-22昭和リードで折り返す。後半なっても流れは変わらず、英和は2チーム交代制で昭和に対抗し“16の連続得点で6点差まで詰め寄る。しかし、昭和は少しずつ交代をしながらディフェンスで頑張る、#4#7#9を中心に得点を重ね、65-50の15点差で勝利。決勝リーグ2勝をあげた。

インターハイ出場のためにはお互い絶対に落とせない一戦。序盤、プレッシャーから両チームともにミスが続いてしまう。それでも千経大附は#15高橋、幕張総合は#7松岡を中心に得点を重ね、14対14で第1P終了。硬さが取れた第2P、点の取り合いとなる。千経大附は得意の速い展開から#9土屋のドライブ、#4中村のジャンプシュートなどで得点を奪うと、幕張総合も#5新井の3P、#15寺内のドライブなどで対抗する。33対39幕張総合6点リードで前半終了。後半に入ると次々とリードが変わる一進一退の攻防となる。千経大附は#7宮城の得点などで一気に7点を奪い逆転に成功する。幕張総合もタイムアウトで立て直し、その後は互いに点を入れ合い、51対52幕張総合1点リードで第3P終了。第4P、序盤に千経大附の#4中村、#5大嶋が大爆発。2人で一気に8点奪い、リードを7点に広げる。対する幕張総合も#11松永のリバウンドや#5新井の3Pで対抗するも千経大附にフリースローを確実に沈められ、逆転には到らない。最後まで足を動かし続けた千経大附が69対64で接戦を制した。

Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total	Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total		
A2	142	男 日体大柏	◎	19	21	15	20		75	B2	182	男 幕張総合	◎	18	16	15	17		66
	101		◎	18	13	32	20		83		141		八千代松陰	◎	25	13	20	17	

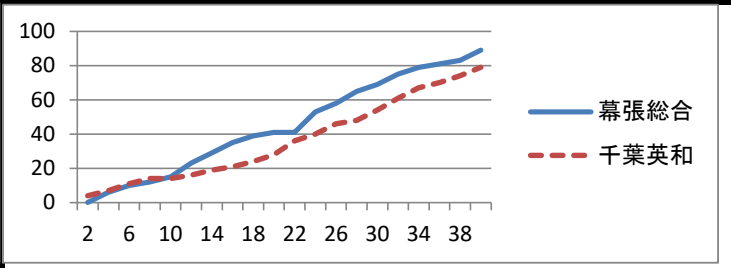
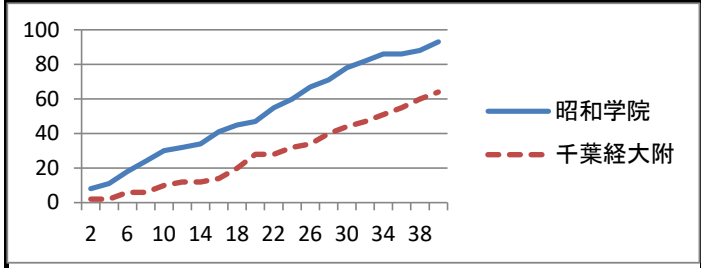


1勝リードの市立船橋と昨日の負けから巻き返しをしたい日体大柏の対戦。日体大柏はスタートから好調。#5長根のアウトサイドシュート、#15ケイタがインサイドで攻撃のリズムを作る。対する市立船橋はエース#4保泉#7野崎の2枚看板が今日も活躍。第1ピリオド両者譲らず19-18で日体大柏の1点でリード。第2ピリオド、市立船橋のシュートが落ち始めると日体大柏#5長根が大爆発。3Pを前半で6本、合計24点をたたき出す。インサイドでも#15ケイタが堅実に仕事をし日体大柏がリードを広げる前半は40-31で終了。第3ピリオド開始早々、市立船橋の強烈なディフェンスが牙をむく。激しいプレッシャーからボールを奪うと怒涛の連続19得点で一気に逆転。開始5分で10点のリードを奪う。日体大柏の#6小出が第3ピリオド終盤に踏ん張り、55-63で市立船橋のリードで終了。第4ピリオド、日体大柏の#5長根のバスケットカウントで始めると連続3Pで一気に逆転をする。しかしここで市立船橋が王者の意地。勝負所で#4保泉#7野崎がシュートを落とさないう。第4ピリオドはまさに二人のショーであった。75-83で王者市立船橋が2勝、日体大柏は2敗で崖っぷちとなった。

両チームともハーフコートマンツーマンでゲーム開始。幕総は#5上甲のゴール下シュートを中心に得点を重ねていく。対する松陰は#12工藤の3Pや#4岩崎の3Pで得点を重ねた。中盤両チームともファウルトラブルにみまわれたが、松陰は#12工藤のシュートが光り、18対25松陰7点リードで第1P終了。続く第2P始め、幕総#9古賀の3Pが連続で当たりだす。対する松陰は#5福井が3Pや3点プレイを決め、松陰がややリードする展開が続く。幕総はタイムアウト後の残り3分、ディフェンスの当たりを強くし、松陰の連続ターンオーバーを誘う。それを幕総#5上甲がゴール下を確実に決め、34対38松陰4点リードで勝負は後半戦へ。第3P、松陰のシュートが安定して入りだす。松陰#4岩崎の3Pを皮切りに、速攻が得点に結びつき一時は43対55の12点リードまで点差が開く。追いつきたい幕総は#6鈴木、#9古賀、#10濱野の3Pで応戦し、49対58で第3P終了。最終第4Pは点の入れ合いの展開になる。幕総は#5上甲が執念の1対1を見せ、3連続得点。対する松陰は#13松井が落ち着いてシュートを決める。残り2分、幕総はディフェンスでプレスを仕掛けるが、松陰の落ち着いたボールさばきに逆にファウルが重なってしまい、最後は66対75で辛くも松陰が決勝リーグ初勝利を上げた。

Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A3	201	女 昭和学院 ◎	30	17	31	15		93
	282	女 千葉経大附 ◎	10	18	16	20		64

Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B3	222	女 幕張総合 ○	15	26	28	20		89
	242	女 千葉英和 ◎	14	14	25	26		79

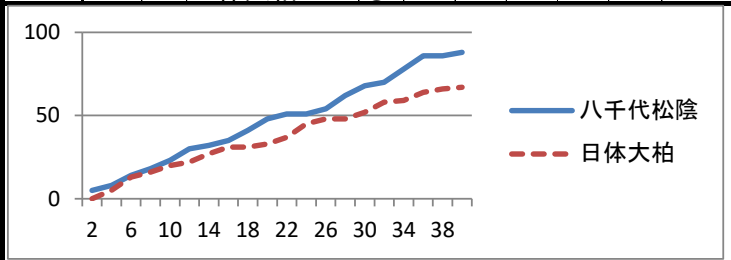
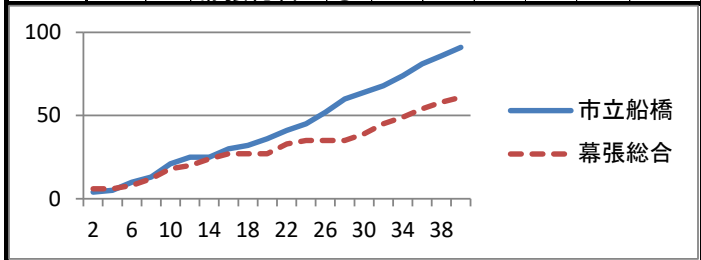


両チーム、ハーフコートマンツーマンで試合開始。第1P、昭和学院はスタートメンバー全員がバランスよく得点し、堅い守備と安定したリバウンドで千葉経大附を寄せ付けない。千葉経大附も#4中村を中心に攻め込むも、30-10と昭和学院大量リードで第1P終了。第2P、昭和学院は#8山下のゴール下を中心に攻め始め、その後も#9山本、#4佐古、#14宮城とバランスよく得点を重ねていく。対する千葉経大附は、#5大嶋や#7宮城の1対1、#15高橋の速攻などで得点を重ね、47-28で昭和学院が19点リードで後半戦へ。第3P、昭和学院はオフェンスの手を緩めることなくコンスタントに得点を重ねていく。千葉経大附も#5大嶋の1対1や、ファウルスローで得点するも、その差は広がらず、78-44と34点差で昭和学院がリード。第4Pはお互いにベンチメンバーを中心とした展開になり、昭和学院が終始リードを保ったまま、93-64で勝利した。

決勝リーグ0勝2敗同士の最終戦は両チームベンチメンバーも多用し、総力戦のゲームとなった。第1P残り4分、千葉英和がオールメンバーチェンジをすると幕張総合もベンチメンバーをコートに入れ、足を使ったディフェンスを試みる。どちらも主導権を握れないまま15対14幕張総合1点リードで第1P終了。第2Pに入ると幕張総合のシュートが当たりだす。#4西川、#15寺内、#10小関の3pなどで点差を広げていく。千葉英和も出場選手がバランスよく得点するがなかなか点差が縮まらない。41対28幕張総合13点リードで前半終了。後半出だし、千葉英和がゾーンプレスにし、プレッシャーを強めると流れが変わる。#4伊藤、#9川原などの得点で5点差まで縮める。このまま千葉英和ペースになるかと思われたが、ここから幕張総合の3pが大爆発。#12岩瀬、#10小関を中心に第3Pだけで7本の3pを沈める。さらに、幕張総合はオールメンバーチェンジからゾーンプレスを仕掛け点差をさらに広げていく。69対54幕張総合15点リードで第3P終了。第4P、追いかける千葉英和はディフェンスのプレッシャーを強め、速い展開から#6田村、#14石橋を中心に点差を重ねる。点差が縮まるなか、幕張総合は慌てずに#11松永を中心に確実に点数を決め返す。この試合14本の3pを決めた幕張総合が89対79で勝利した。

Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
A4	101	男 市立船橋 ◎	21	15	28	27		91
	182	男 幕張総合 ◎	18	9	12	22		61

Game		Team	1Q	2Q	3Q	4Q	OT	Total
B4	141	男 八千代松陰 ◎	23	25	20	20		88
	142	男 日体大柏 ◎	20	13	19	15		67



決勝リーグ最終戦。第1P幕総#9古賀の3pで試合は始まった。対する市船は#6薬丸のカットインから連続得点し、どちらもゆずらない展開が続く。序盤、幕総#5上甲のインサイドプレーが光り、幕総がリードするも、残り1分、幕総のオールコートプレスに対し、市船#4保泉、#6薬丸の3pが連続して決まり、21対18市船リードで第1P終了。続く第2Pは両チームともシュートが入らない苦しい時間が続く。市船#5庄司と幕総#5上甲のインサイドのやり合いの中、市船は#4保泉のカットインから得点を重ね、36対27の市船リードで第2P終了。第3P、幕総#10濱野の3pが連続して決まると、対する市船は#5庄司や#7野崎を中心にコンスタントに得点を重ねていく。残り2分、幕総はボールマンに対し強いディフェンスのプレスを仕掛けるが市船は冷静にボールを回しながら得点を重ね、64対39で市船がリードを広げて第3P終了。最終第4P、市船#7野崎の勢いは止まらず、3連続得点をする。最後に意地を見せたい幕総はゾーンプレスからローテーションを盛んに行い、ディフェンスを仕掛けるが、市船は危なげない試合運びで、91対61でこの試合全員出場の市船が優勝を決めた。両チームとも最後まであきらめずにボールを追いかける姿が印象的なナイスゲームであった。

昨日の敗戦から見事這い上がりインターハイまであと1勝に迫る八千代松陰と2敗でわずかな機会をうかがう日体大柏の対戦。八千代松陰は序盤から3Pが炸裂する。#12工藤が3本の3Pを含めた5本の3Pを沈めリードを奪う。日体大柏もインサイド#15ケイタが孤軍奮闘するも第1ピリオドは八千代松陰が20-13とリード。第2ピリオドも流れは変わらない。八千代松陰は再びこのピリオドでも速いランジョンからの3Pで試合を優位に進める。日体大柏もケイタがインサイドで頑張るも差は縮まらず前半は48-33八千代松陰リードで前半終了。第3ピリオド日体大柏はディフェンスをゾーンに変更する。これに八千代松陰が攻めあぐねるとじりじりと差を詰めることに成功する。しかし八千代松陰はタイムアウトからペースを取り戻すと最後の5分を14-4とゾーンを攻略する。第4ピリオドは粘る日体大柏を振り切り八千代松陰が逃げ切る。2年ぶりのインターハイ出場を決めた。